

団体・組織の概要

*太枠内、必須事項。その他は、該当する項目を記載してください。

団体/会社名	特定非営利活動法人 HANDS		
代表者	中村 安秀	担当者	定森 徹、溝上 芳恵
所在地	〒113-0033 東京都文京区本郷 3-20-7 山の手ビル 2F TEL:03-5805-8565 FAX:03-5805-8667 E-mail:info@hands.or.jp		
設立の経緯／沿革	日本国内の保健医療関係者や米国の公衆衛生 NPO、Management Sciences for Health のスタッフを中心に、日本で専門性の高い国際保健医療活動を実施する NGO を立ち上げ、保健分野を中心とする NGO ならびに NGO スタッフの地位向上を図るとの信念のもと、2000 年 1 月に任意団体として設立。2001 年に特定非営利活動法人格を取得した。同年、ブラジルのアマゾン地域でプロジェクトを開始し、その後、アフガニスタン、ケニア、インドネシアなどで地域の保健システムの構築や改善を支援する活動を展開してきた。現在は、地域はアジア、アフリカ、中南米、事業分野は保健協力を中心に、生活改善や環境にかかるプロジェクトも実施している。		
団体の目的／事業概要	保健医療の仕組みづくりと人づくりを通じて、世界の人々が自らの健康を守ることができる社会を実現するために行動する。本目的達成のため、以下 3 つの活動を中心に実施する。 1. 保健医療システムの開発と実践：環境や文化に配慮した、地域に適した保健医療システムの改善・マネジメント方法の開発支援 2. 専門的人材の育成：経験や知識を生かした次世代国際協力専門家の育成 3. アドボカシー：知識や経験の日本国内への還元および政策提言 現在、事業はブラジル、インドネシア、スーダン、ホンジュラス、エジプト、日本国内で実施。分野は、母子保健、地域保健、母子健康手帳研修、生活向上に係る環境保全、人材育成など。		
活動・事業実績 (企業の場合は 環境に関する 実績を記入)	2008 年の実績としては、第 6 回母子手帳国際会議の開催、スーダン・ホンジュラス・エジプトでの技術協力プロジェクトの開始、日本国内での人材育成セミナー、プロジェクト報告セミナーの開催、ブラジル・インドネシアでのプロジェクトの継続実施がある。 環境関連事業としては、ブラジル・西部アマゾンのアマゾナス州マニコレ市において、環境保全・栄養改善・収入向上を目指すプロジェクトを、独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金、味の素株式会社「食と健康」国際協力支援プログラム、株式会社ラッシュジャパン LUSH チャリティバンクプログラムの助成により開始。アグロフォレストリー手法の本格導入に向けた調査・セミナーの実施、試験的実践、果樹・薬用樹の育苗と学校での植樹、アグロフォレストリー先進地域であるパラ州トメアス市への農民派遣研修を実施した。		
ホームページ	http://www.hands.or.jp/		
設立年月	2000 年 1 月 *認証年月日（法人団体のみ）2001 年 2 月 16 日		
資本金/基本財産 (企業・財団)	円	活動事業費／ 売上高 (H19)	110,466,863 円
組織	スタッフ／職員数 22 名 (内 専従 9 名) 個人会員 56 名 法人会員 2 名 その他会員（賛助会員等） 39 名		

政策のテーマ

アマゾン熱帯雨林におけるアグロフォレストリー普及とアグロフォレストリー認証制度の制定

■政策の分野

③地球環境問題への対応 ④自然環境の保全

⑩環境パートナーシップ

■政策の手段

②制度整備及び改正 ⑤施設等整備 ⑥調査研究、
技術開発、技術革新 ⑨組織・活動 ⑭国際環境協力

団体名：特定非営利活動法人 HANDS

担当者名：定森徹、溝上芳恵

■キーワード アマゾン森林保全 アグロフォレストリー 日系社会との協働 環境認証制度

① 政策の目的

南米アマゾンの熱帯雨林の森林破壊を食い止める対策になりうるものとして脚光を浴びはじめているアグロフォレストリーのアマゾン全域での普及と、產品の受け入れ先となる日本などの先進国のマーケット拡大のため、技術移転のための研修施設を開設し、官民連携のアグロフォレストリー認証制度を創設する。

② 背景および現状の問題点

1) アマゾン熱帯雨林破壊の現状と対策

ブラジルが全体の70%以上の面積を占めるアマゾンの熱帯雨林では、現在も毎年約17万km²の森林が違法伐採や牧場建設などのために消失している。熱帯雨林の消失は、地球規模でのCO₂排出量増加のみならず、貴重な生物多様性や遺伝子資源の減少、地域の乾燥およびサバンナ化、そして農村部零細農の都市への転出と貧困化などの様々な問題を引き起こしており、今後、事態は一層悪化すると予測されている。

ブラジル連邦政府は、日本政府の協力により高性能衛星による違法伐採監視モニタリングなどを強化している。しかし、法定アマゾン地域だけで日本の国土の13倍以上にあたる広大な地域でしばしば武装すらしている違法伐採者を有効に摘発するのは極めて困難である。

2) アマゾン地域におけるアグロフォレストリー

ブラジルのアマゾン地域の最大かつ最古の日本人入植地であるアマゾン東部のパラ州トメアス市では、日系移民が中心的な担い手となってアグロフォレストリーが実践されている。これは1950年代のコショウ栽培の大成功の後、病害で壊滅的被害を受けた地域の農業再生を模索するなかで、川沿いに住む農民の自然の恵みに依拠する生活からヒントを得て生まれ、発展してきた。

アグロフォレストリーは、「森をつくる農業」とも呼ばれるように、さまざまな作物から成る再生森林を作り上げる手法である。単位面積当たりの収入が焼畑農業や牧畜に比べ高いことから農民の生活向上を可能にするだけでなく、焼畑による環境負荷を軽減するなど、森林・土壌・生物多様性の保護にも優位性を持つ。さらに、農民が継続的に農業を行えれば現金収入を求めて都市部に流出する必要性は薄くなり、違法伐採者などによる大規模な森林伐採が起こりにくくなる利点もある。つまり、草の根レベルからの森林保全を実現するシステムであると言える。

手法の技術移転については、国際協力機構（JICA）の支援などで周辺国を対象とする研修は行われているものの、国内農民への研修制度はなく、アグロフォレストリーは日系人の多いアマゾン川東部の河口域以外の農民にはほとんど普及していない。例えば、西部アマゾンではキャッサバ芋の焼畑農業が依然中心であり、環境負荷の増大が大きな課題となっている。アマゾンの森林破壊は人口の多い東部下流域から西へ向かう傾向にあるため、こうした地域に手法を普及させ、破壊を食い止める契機とすることは急務である。また、環境保全と生活向上を両立させるためには產品の受け皿としての国際マーケット確保が検討されるべきであり、そのためにも国際基準を満たした農作物生産の必要があるが、現状、ブラジル国内には熱帯地域果樹用の農薬や肥料に対する公的な認証制度はなく、食の安全性への関心が高まる今日、多量農薬の使用がマーケット拡大の障壁となる可能性が高い。

③ 政策の概要

日本とブラジル日系人の誇るべき技術であるアグロフォレストリーの、①ブラジル国内、周辺国、およびアフリカへの普及のための実地研修、および、②国際的基準に準拠したアグロフォレストリー認証制度の創設、を提案する。

1) アグロフォレストリー研修

- ・アグロフォレストリーの実地研修施設の開設
- ・アグロフォレストリー手法の標準的研修プログラムの策定
- ・ブラジル国内・周辺国・アフリカの関係者に対する研修の実施

2) アグロフォレストリー認証基準の創設

- ・ブラジル国内での使用農薬や肥料についての現状研究
- ・アグロフォレストリー認証基準の策定、妥当性検討
- ・アグロフォレストリー実践農家に対する検査と認証
- ・認証普及のための優遇税制等の策定や法制化の支援

④ 政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）

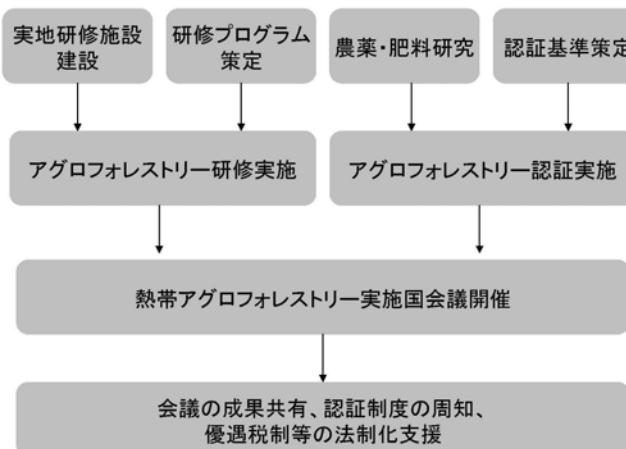
1) アグロフォレストリー研修

- ・実地研修施設開設：先進地域であるパラ州トメアス市に、アグロフォレストリー実践の中心機関であるトメアス総合農業協同組合（CAMTA）、アマゾン地域の農業や牧畜の研究機関であるブラジル農牧研究公社（EMBRAPA）との共同施設として、アグロフォレストリーの実地研修が可能な研修施設を開設する。
- ・研修プログラム策定：トメアス市の日系実践専門家などと共に、アグロフォレストリー手法の標準的研修プログラムを策定する。
- ・研修実施：策定プログラムに基づき、ブラジル国内、ペルーやボリビアなどの周辺国、モザンビークやアンゴラなどのポルトガル語圏を中心とするアフリカ諸国の農民や専門家に対する研修を実施する。講師は実践経験を持つトメアス市日系農家を中心に構成する。

2) アグロフォレストリー認証基準の研究・創設

- ・使用農薬・肥料研究：現在、ブラジル国内には熱帯地域果樹用の農薬・肥料の公的認証基準がないため、アグロフォレストリー認証基準策定の準備段階として使用農薬や肥料の現状研究を行う。
- ・認証基準策定：アグロフォレストリー製品の安全性を担保するため、具体的な栽培手法、使用可能な農薬や肥料、労働基準などからなるアグロフォレストリー認証基準を策定する。その妥当性は、研究者、企業、政府機関、NGOなどの複数のステークホルダーで検討し、熱帯アグロフォレストリー実施国などの会議においても議論する。
- ・認証の実施：既存のアグロフォレストリー実践農家を対象に、栽培方法等の検査を行い、認証を与える。
- ・法制化支援：認証制度を普及・定着させるため、ブラジル政府機関による優遇税制等の策定や法制化を支援する。また、制度について、日本を中心とする先進諸国に周知する。

＜全体の流れ＞



⑤ 政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）

- ・ 事務局、関係機関との調整：HANDS
- ・ 技術アドバイザー：東京農工大学研究者など学識者、トメアス総合農業協同組合（CAMTA）
- ・ 認証基準研究：東京農工大学研究者など学識者、ブラジル農牧研究公社（EMBRAPA）
- ・ 研修プログラム策定：CAMTA、EMBRAPA
- ・ 研修受け入れ：CAMTA
- ・ アグロフォレストリー認証：EMBRAPA
- ・ 技術協力：日本政府機関
- ・ 先進国マーケット整備：日本企業など

⑥ 政策の実施により期待される効果（具体的にお書きください）

1) 地域住民の生活向上

法定アマゾン地域のGDPは、ブラジル全国の8%程度であり、地域住民の生活水準は、経済発展を遂げるブラジルにおいて極端に低いと言わざるを得ない。その大きな要因のひとつに、現金収入を得られる産業がほとんど存在しないということがある。アグロフォレストリーは、従来の焼畑や牧畜に比べ、単位面積あたりの収入が高く、雇用吸収力も高いという利点を持つ。また、単一作物栽培に比べ病害虫などの被害や農作物価格の相場変動の影響を受けにくい。認証制度によりアグロフォレストリー実践が増加し、ブラジル国内や先進国での產品消費量が増加することにより、現地の雇用を吸収し、地域住民に安定した現金収入をもたらすことが可能となり、これにより生活水準の向上を図ることができる。

2) 持続可能な開発による環境保全

また、アグロフォレストリーには環境負荷の低さという大きな利点がある。複数の材木樹や果樹などを同時に栽培しながら、擬似的に森の成長サイクルを再現するアグロフォレストリーは、森林・土壤・生物多様性の保全に優れている。さらに、焼畑のように数年で移動耕作をする必要がなく、数十年間ひとつの場所で持続的に農業を行うことが可能である。アグロフォレストリー普及のためには手法の十分な理解と一定の継続的な指導体制の整備が必要であるが、本政策によりある程度の規模までこれを実現することができる。

3) 日本・日系社会の技術の普及と地球環境保全への貢献

アマゾンのアグロフォレストリーは、日系人が中心的担い手となって発展したものだが、その背景には日本の農村の経験や日本における先進的農業技術研究の裏づけがあった。現在も、JICAにより、アマパ州の技術協力プロジェクトや周辺国への研修事業が実施されており、日本と日系社会が一体となってアグロフォレストリーの普及に取り組んできたと言える。体制を整備し、これをさらにアフリカなどの他の熱帯地域に普及させていくことは、日本の国策と地球環境保全を両立させるものである。

⑦ その他・特記事項

1) 類似認証制度

既存の類似認証制度として、FSC（Forest Stewardship Council：森林管理協議会）森林認証制度がある。これは、世界中の森林を対象に、環境保全、社会的利益、経済的な持続可能性の観点から適切な森林管理がなされているかを第三者機関が評価して認証を与え、認証ロゴマーク製品を幅広く流通させることにより、森林管理者から消費者にいたる様々なステークホルダーを巻き込んで森林保全へ取り組むものとなっている。アグロフォレストリー認証制度の考え方もこれに類似しており、対象をより限定することで地域に即した実現可能性を担保できると考える。

2) 団体の実績

本政策の実施主体となる特定非営利活動法人HANDSは、主に保健医療活動を行うNGOであるが、西部アマゾンのマニコレ市においては、住民の生活向上を目指した持続的開発推進のため、アグロフォレストリー手法の導入を開始している。2008年には独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金より助成を受け、トメアス市農業局長兼トメアス総合農業総合協同組合理事であり、非常に成功した実践家として知られる日系移民の小長野道則氏を専門家として招聘し、アグロフォレストリー普及のための調査とセミナーを行い、一部で実践を開始した。トメアス市以外での実践例が限定されていることからも、トメアス市とのネットワークとトメアス市以外での実践経験は、地域の事情を考慮に入れた研修制度開発や認証制度策定にプラスに働くものと思われる。